くつろぎたいむ

松江赤十字病院広報誌 第59号（2017年 冬号）

年頭のごあいさつ

松江赤十字病院　院長　桒　公平

明けましておめでとうございます。

昨年は4月に熊本地震が発生し、当院からもＤＭＡＴや救護班が沢山出動しました。テレビなどで被災地の状況が刻々報道され、被災者の方々の姿を見るにつけ、何か手助けをしてあげたいと思うのは、多くの皆様方の気持ちであろうと思います。10月には鳥取県中部地震もおこりましたし、本当に日本は地震国だと思いました。またいつどこで災害が発生するかわかりません。当院ではいつでもＤＭＡＴや救護班を派遣する用意をしています。また、病院の本館1階待合や6階講堂には酸素等の配管をしており、災害時には被災した患者さんを収容できるようにしております。更に病院北にある公開空地にはテントを張って医療を行うことができます。

地域医療構想という言葉を聞かれたことがあるでしょうか。人口の多い団塊の世代が後期高齢者の仲間入りをする２０２５年の人口動態や医療需要等を予測して、病院間の機能分化を自主的に調整しようということですが、松江市の急性期病院の間ではまだ殆ど進んでいません。それぞれ設立母体が違いますので、ことはそう簡単ではないと思われます。また、地域包括ケアも松江市内では意識がまだ低いようで、具体的に進んでいるようには思えません。今後の推移を見ながらも当院は今後も地域の基幹病院として高度・良質な医療を提供していきたいと思います。

本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

表紙写真／『元旦の美保関町夫婦岩から望む伯耆富士』 撮影：佐藤 利昭

NST専門療法士に理学療法士2名、管理栄養士1名が合格しました

低栄養になっていませんか？

医療技術部　栄養課　管理栄養士　赤名　奈緒子

最近テレビなどでは、過栄養による肥満などの生活習慣病についての番組をよく見かけます。しかし、入院患者さんは「食べようと思っているけど量が多くて食べられない」「硬くて食べにくい」など食事摂取が進まず低栄養になる方も多いです。中には、嗜好や嚥下機能に適した食事内容に調節し、食べられるようになる方もおられます。

しかし、試行錯誤しても食べられない方、嚥下障害などの影響で口からだけでは必要な栄養が確保できない方、下痢などで十分な栄養が吸収できない方など食事の力だけではどうにもならず、低栄養が進んでしまう方もたくさんおられます。そんなとき、NSTの出番になります。

★NSTとは…

Nutrition(栄養) Support(サポート) Team(チーム)の略です。低栄養、あるいはその危険性が高い患者さんの栄養のサポートを医師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、看護師、理学療法士などの多職種でチームを組んで実施する集団がNSTです。

対象の患者さんの栄養状態を評価し、どのくらいの栄養量が必要か、食事や点滴で必要な栄養量が確保できているか、栄養補給方法に問題がないかなどについて、患者さんや家族の希望も考慮しながら一番適切な栄養療法を検討し、提案しています。そのNSTの中でも栄養に関する専門的な知識を持って活躍しているのが、NST専門療法士です。

★低栄養になると…

低栄養とは、健康に生きるために必要な栄養量が摂取できていない状態を言います。低栄養が進行すると病気や傷が治りにくく、時には悪化させることもあります。また、身体の本来の機能がうまく働かないため、感染症など合併症が起こりやすく身体に様々な悪影響を及ぼします。

それぞれ専門職種の立場から知識を出しあい栄養状態の改善を目指すことにより、患者さん一人ひとりの生活の質も向上し、今後の人生がより有意義なものになると考えています。私たちもそんなチームの一員として活動していきたいと思っています。

南 理学療法士　赤名 管理栄養士　足川 理学療法士